

## (2) - 4) ④里山保全・整備残さ「クズ」を利用した健康商品開発（岡山県真庭市）

地元の女性グループが中心となり地元の管理技術と専門家の植物知識を活用して、里山の野草を利用した商品開発を行い、里地里山保全・活用を促進させている。

### a. 取組の背景と経緯

岡山県真庭市は木材市場や製材工場などが集中立地する「美作材」の製材加工・流通の拠点で、近年はバイオマスタウンとしても注目を浴びている。

市内で特に林業が盛んな富原地区では、地域の女性を構成員とする「富原婦人林研クラブ」が約30年にわたって活動を続けている。

木材生産以外の里地里山の多様な資源活用への関心の高まりから、林野庁や真庭市、東京農業大学等の連携事業から、里山の資源を利用した「真庭らしい」をキーワードにした商品開発の取組が始まった。

### b. 活用方法

#### ■保全活動で出る「クズ」を活用した商品開発など里山の野草を用いた製品づくり

真庭市は高齢化の影響もあり、市内には遊休地や十分に手が入らなくなった里山が散見され、クズなどの雑草が繁茂する状況となっている。富原地区で主に活動している富原婦人林研クラブは、保全活動によって除去されたクズを利用し、専門家の指導を受けながら、健康増進作用が期待できる商品開発を試みている。

#### ■地元製品の販売促進のシンボルとしての活用

本業である林業PRのシンボルとして、また大阪などの都市圏への産直販売の主要イメージ製品として、真庭ならではの製品としての活用が期待されている。



写真：  
集落近傍の野山で自生する草花利用についての観察学習会を行う。  
(富原婦人林研クラブ)

### c. 保全活動と野生生物への効果

地元の身近な植物に関する知識や料理技術などを必要とする野草を活かした取組は、地域集落の女性グループの活動を活性化させており、観光や地域製品の販売も促進させている。またクズなどの野草利用は保全活動によって生まれる残さ利用の側面を持っていることから、健全な里地里山の保全・管理を促す効果が期待されている。



写真：紙漉き体験の様子（かみこやホームページより）